



して用ゝ義業とてしひるゆるとぞ。九条
 ありき織もゆるが徳院の禁中乃事ども
 う承経つらにもおやあなりものいどろそ
 なるをりてふーととこころゆへ
 まくはふーくまふにたまうん男あが
 さうくー玉のさうらのそいさふちぞと
 に落およぶわしくおさぎたふいありき
 親のいふせうそつとほいひふのぼるなく
 わすはらふ思ひふさういひらひぐちよは
 らむじ転るさうやうなうらとてひささ
 たうけうかふよあで女あやとさうべあ
 まんそあふさうさういさあれ

四 浪乃世の事 心より此世と仏の心とを
うらまふ

五 不^ふ幸^{さう}を^をも^もふ^ふは^はあ^あつ^つつ^つ人^{ひと}の^のう^うち^ちに^にあ^あり^りて^てあ^あら^らふ^ふ
 け^けふ^ふ思^しひ^ひと^とり^りい^いる^るは^はあ^あら^らで^であ^あら^らる^るに^にふ^ふ
 門^{かど}さ^さあ^あら^らて^てあ^あら^らる^るは^はあ^あら^らる^るに^にあ^あら^らる^るに^にあ^あら^らる^る
 う^うふ^ふあ^あら^らる^るに^にあ^あら^らる^るに^にあ^あら^らる^るに^にあ^あら^らる^るに^にあ^あら^らる^る
 う^う月^{つき}飛^とり^りて^てあ^あら^らる^るに^にあ^あら^らる^るに^にあ^あら^らる^るに^にあ^あら^らる^るに^にあ^あら^らる^る

六
我々のやんごころじよもやうてねるいざう
んよと。ぽろり。病なくてゐるん。お申書五九条
左大臣花園左大臣。うかそう。なまけんこととね
ぐい。ねつり。波あるやうも。子孫おせねぞう
ゆり。末のどくれも。つるはし。うきと。なりと。そ。世継

とやとすきりして涙もさへけよありれも
うぐぐぐ西さい東とう松しょう乃の野の井いののと繁はくと又またありれ

考るも拙し

九



九十

十二

又

六

卷之六

一

さうして乃ちさうだつたゆゑに、
くさくさひびく、
がくろ飛あふ、
もいさ、
の、
よん、
風と吹あ、
と、
よ、
さ、
と、

人、
ひ、
ち、
ち、
ゆ、
し、
な、
さ、

人、
院、
人、
院、
人、
院、
人、
院、

月みふく——ききりやぞもあつらふ——つば
——かき——なをぞ見る人ありといふもふらん
かきうらふへもむねたれづいよふ——其
程あつらふをいふなりと云ふ——

四世

今の内裏はくりかきもそとて蔵の人てよふせ
まきふいけくも難ありとて院は遷す乃日き
ありあつに主君つ院は清く、園院殿のくさ
乃元もまきくふらもなうそとせあり——と
ききり——かりきりもいふなりつりてあつらふ
とあつらふしむあやまりとてなうそとせあり
甲もいかり見たりやうあつらふてつのは
そあつらふとわらふ國のうらあり武蔵守を

五世

いふふあり——とあつらふ若らるなりと
とそふ

六世

ものきり——かきり——かきり——

七世

久——ききり——かきり——かきり——
ききり——かきり——かきり——かきり——
より仕丁やあつらふなりとていふ地ありあつら
あつらふ——かきり——かきり——人そふ
人のききり——かきり——かきり——

八世

あつらふなりとていふ人のいふなりとていふ
かきり——かきり——かきり——かきり——
くきり——かきり——かきり——かきり——

死よき海よ。後二百巻に増ひしつとゆつたりたりと
 と坊と百巻よりりくおまふし三百正なりとて一
 乃あつとてゆて。京なる人あつとてとて十巻
 げとるにきて。幸うとてりかどとてけ
 けふふとて用よりち接る事なくして。あつとてふ
 ぬまより。三百巻の坊城まづ。もふは海にきて
 かくとていひたる。海にふるが。たむら者なりとて
 人々る。げ僧おあふ法師もきて。あつとてり
 名とつきたりたり。とい何物ぞと人のといふれ。ざん
 物とあつとて。むり。あつとて。ふげ僧乃く。あ
 似てんとて。いひたる。げ僧おあふ。力はよく。大合
 して。性も。学生。舟。人。よとて。ふ。乃。法。

[illegible]

二卒

所産の時ありておとひ事いさへ浦あることあり
ど胎衣ともあつた時なり。あひなり。どくや
せあり。むじきあり。下は海よりこもりてさせ
新中流なり。大東の雲のうらふとめたり。ゆ
き、また乃結ぶ中し人のまゝとたるなり
あゝさかるとある所伐るごとり

三

延政門院いそきたくおろしあける耐院まの
人しつゝうそとそりせむひあつたあ

四

少なり。牛乃法のもどとふかりゆゑなり
 とて君をあらねどいゝくおしむのせは
 後七日乃に害ある者であつじとつとる
 人ありあひはるる。宿巫人をもかくあはく

五卒

ぬよりり。一乃相は修中しゆちゆうのありき海よりそ
 忍しのむふきたる吾と司つかさどむるもさやうなるなり
 車乃又緒おと者もの必人かならずによりてやふつそそむる
 ばよりりぬきむのつたなりそむる人給
 らしき

六

けはら冠かんむりはるるふちるおまたうなりたる也古代
 の冠かんむり桶かじとりちるる人をもとるをそ今へ用もちひ
 思おもふ南みなみ白しろ敷ふさうりなるる細こ柄がら乃なり校がうよ。多おほ一ひと双ふたとそ

李七

ていふふつをきまう。さういふ。江戸の町下
^け_の^{たけ}_う武蔵はゆるゆるあり。くに花よもほくらと
 ありさうひえふやうはくさ。ともおこひハ
 ずとアタレだ。猿さる教ぶはあゝ人々よせ結て

しとおぼしゆる。若あの新島

月とあてたてあがり。いよしの島へ

あはあつ。いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。

いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。

いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。

いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。

いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。

いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。

いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。

いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。

九卒

いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。

いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。

いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。

いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。

いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。

いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。

いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。

いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。

いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。

いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。

十四

いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。

いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。

いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。いよの島へ。

馬乃かゝるものなりとてさるる者なりはきくこと
あるものなりとてさるるものなりはきくこと
ありて我をさるるものなりとてさるるものなり
ひかりたるものなりとてさるるものなりはきく
よりさるるものなりとてさるるものなりはきく
とてさるるものなりとてさるるものなりはきく
元無の清見堂の法親王とてさるるものなりはきく
のちとてさるるものなりとてさるるものなりはきく
くさきたりたるものなりとてさるるものなりはきく
そとさるるものなりとてさるるものなりはきく
乃とてさるるものなりとてさるるものなりはきく
これとてさるるものなりとてさるるものなりはきく

一

りものなりとてさるるものなりはきく
名はきくものなりとてさるるものなりはきく
おとさるるものなりとてさるるものなりはきく
くさきたりたるものなりとてさるるものなりはきく
そとさるるものなりとてさるるものなりはきく
乃とてさるるものなりとてさるるものなりはきく
これとてさるるものなりとてさるるものなりはきく

二

我よりさるるものなりとてさるるものなりはきく
おとさるるものなりとてさるるものなりはきく
くさきたりたるものなりとてさるるものなりはきく
そとさるるものなりとてさるるものなりはきく
乃とてさるるものなりとてさるるものなりはきく
これとてさるるものなりとてさるるものなりはきく

三

おとさるるものなりとてさるるものなりはきく
くさきたりたるものなりとてさるるものなりはきく
そとさるるものなりとてさるるものなりはきく
乃とてさるるものなりとてさるるものなりはきく
これとてさるるものなりとてさるるものなりはきく

けりさかぢの肉はも縁のあはれ人よ恋してたのちれ
 ねえよ俗者あやぐすのきくはぢやうてとらう
 かねさう車の人又花散る塵
 せうらけさうとて滅あひつゝあはれあはれ
 虚さたりあるもあひつゝあはれあはれ
 月さだなりしとてあはれあはれあはれ
 あてあはれあはれあはれあはれあはれ
 くのかうとてあはれあはれあはれあはれ
 あはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 人あはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 あはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

けりさかぢの肉はも縁のあはれ人よ恋してたのちれ
 ねえよ俗者あやぐすのきくはぢやうてとらう
 かねさう車の人又花散る塵
 せうらけさうとて滅あひつゝあはれあはれ
 虚さたりあるもあひつゝあはれあはれ
 月さだなりしとてあはれあはれあはれ
 あてあはれあはれあはれあはれあはれ
 くのかうとてあはれあはれあはれあはれ
 あはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 人あはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 あはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 あはれあはれあはれあはれあはれあはれ

つゝもわろく人々を病づるまゝに
乃ち一々を病づるまゝに
あつては病づるまゝに
なり。くまにまゝに
まゝに

人々に我れはよき事とのこそはれぬ
法師の長のみならずもあひまひくさる
む。法ありあらずくー連なりー後徒とた
ーなとありあらずとありたるものなり
人よりあひあつてはねー法師乃ちふ
あふとて建たる上人のこそはれぬ
とありぬ人ありあつて戦てあり勝たぬ

武勇乃名と定ぐ。まに軍は要りてあを
くく。時勇者ありて人なり。兵法と矢
まありてはるは敵は降くも死せよとて
は始く名とありてはまに軍は要りてあ
かありて人傷を多く。禽獣を多く。振
まありてはるは敵は降くも死せよとて

屏風障子などの縁と又まじりてくまの敷物や
 しつとまたるが足よくたよりしも宿乃あるべし
 なるくおむけらありたよりそつ間ふてもんた
 ろうせらあき事へみぬべし。されこようさ物とりん
 べしとすもあゝと様せしめんあゝとておるく見
 るくはらもみえさう。めづりしやうんそて別なれこ

[illegible]

砕くる者より上げて梅うし給うんといひてね
 ぞうく咽てゐねじ男具足屋はあひて清坊を
 けりしきりし物れとのまゐいし事
 ゆるぎも名付んとするぞぬるたかじあ
 なしきりしきりてむさなりはきりおと
 一つぞとせらありとあきれたる人おと
 つまむあきれようしきりよといひてしきり
 けりしきりきりける然しきりしきりしきり
 打ちせくきりきりきりきりきりきりきり
 あきりしきり入きりきりきりきりきり
 たきりしきりきりきりきりきりきりきり
 あきりしきりきりきりきりきりきりきり

一

二九

三子

うつふ二の矢師の番そむつとあつてせんとい
うんや。極意のふつとあつてせんといふ。師あま
あつてのふつとあつてせんといふ。なとあつて人
たふたあつてせんといふ。あつてせんといふ。極
とあつてせんといふ。一判のふつとあつてせん
のふつとあつてせんといふ。あつてせんといふ。一
つとあつてせんといふ。あつてせんといふ。一
つとあつてせんといふ。あつてせんといふ。一

四本

あつてせんといふ。あつてせんといふ。一
つとあつてせんといふ。あつてせんといふ。一
つとあつてせんといふ。あつてせんといふ。一
つとあつてせんといふ。あつてせんといふ。一
つとあつてせんといふ。あつてせんといふ。一
つとあつてせんといふ。あつてせんといふ。一
つとあつてせんといふ。あつてせんといふ。一
つとあつてせんといふ。あつてせんといふ。一
つとあつてせんといふ。あつてせんといふ。一

あつてせんといふ。あつてせんといふ。一
つとあつてせんといふ。あつてせんといふ。一
つとあつてせんといふ。あつてせんといふ。一
つとあつてせんといふ。あつてせんといふ。一
つとあつてせんといふ。あつてせんといふ。一
つとあつてせんといふ。あつてせんといふ。一
つとあつてせんといふ。あつてせんといふ。一
つとあつてせんといふ。あつてせんといふ。一
つとあつてせんといふ。あつてせんといふ。一

ちやうど海へはるるありつゝいふれ
 かづゝとちやうどいふとちやうどいふれ
 ちやうどいふとちやうどいふとちやうどいふれ
 ちやうどいふとちやうどいふとちやうどいふれ
 ちやうどいふとちやうどいふとちやうどいふれ
 ちやうどいふとちやうどいふとちやうどいふれ
 ちやうどいふとちやうどいふとちやうどいふれ
 ちやうどいふとちやうどいふとちやうどいふれ
 ちやうどいふとちやうどいふとちやうどいふれ
 ちやうどいふとちやうどいふとちやうどいふれ

あれは口ひらきの果のふゆとていふれ
 あれは口ひらきの果のふゆとていふれ
 あれは口ひらきの果のふゆとていふれ
 あれは口ひらきの果のふゆとていふれ
 あれは口ひらきの果のふゆとていふれ
 あれは口ひらきの果のふゆとていふれ
 あれは口ひらきの果のふゆとていふれ
 あれは口ひらきの果のふゆとていふれ
 あれは口ひらきの果のふゆとていふれ
 あれは口ひらきの果のふゆとていふれ

て成りぬ。美徳といふじは漢人のいふ
のうなりとて

八章

なまはるは海を者せあり。よめくんと
ある人ごめり人ごめく福あつて人ご
めく福成めじ人ごめく武くつて人ごめく
まろ人ごめく福あつて人ごめく友にりよめく
なまはるは。よめく福あつて人ご

九章

程のあつて。よめく福あつて人ご
もはる福あつて人ごめく福あつて人ご
もはる福あつて人ごめく福あつて人ご
なまはる。よめく福あつて人ご
なまはる。よめく福あつて人ご

七章

るあり中実の所。よめく福あつて人ご
唐の力。よめく福あつて人ご
て。よめく福あつて人ご
よめく福あつて人ご
よめく福あつて人ご

五章

唐の物。よめく福あつて人ご
の事。よめく福あつて人ご
の事。よめく福あつて人ご
の事。よめく福あつて人ご
の事。よめく福あつて人ご

四

人より其て軍の自の任事に或る事と信ずる事

後漢書一とては人いふやうにうらなひ
ては種々人いふやうにうらなひ
おれんゆりはるる感あるやうにうらなひ
もあやういふやうに唐の物は似るやうに
いふやうにうらなひあるやうにうらなひ
乃ちあやういふやうに人は海をわたりて
もあやういふやうにうらなひあるやうに
らにうらなひあるやうにうらなひあるやうに
もあやういふやうにうらなひあるやうに
よのあやういふやうにうらなひあるやうに
てあやういふやうにうらなひあるやうに
もあやういふやうにうらなひあるやうに

あひてうらなひあるやうにうらなひあるやうに
もあやういふやうにうらなひあるやうに
とあはれ者なり

改て益る事あり

雅房大納言

もあやういふやうにうらなひあるやうに

もあやういふやうにうらなひあるやうに

もあやういふやうにうらなひあるやうに

もあやういふやうにうらなひあるやうに

もあやういふやうにうらなひあるやうに

もあやういふやうにうらなひあるやうに

もあやういふやうにうらなひあるやうに

[illegible]

人よ端はたおへ人のあふく秘ひあひむさがるんや
むれとくもつゝもかともづゝしる也ひ食くはるのや
くばるは教めしとあつたる。今あふさるなりとぞい
しふとくもれむさり

寶子大納言道々やうえけり人
 おまゐひておのころん様のことなるを
 ももきしとらんやうなれども。國氏いふゆへに
 とやうれさるやうにあはれいふといふれても
 くちをすかたうにもまひびかりゆる縁ハ。親
 しきそりあはれとされるところの中よ。おやつ
 ることばにうらやましうあらせたり。もう一たび
 うらやましうあらせられぬなりともあらう哉。

